

謝辞

心地よい春風にのって、ほのかな花の香りが漂う頃となりました。皆様の温かい祝福のもとに、私たちは共に過ごし、沢山の思い出を築いてきた母校を卒業し、新たなる道へ歩み始めます。

本日は、私たちのために、このような心温まる卒業式を挙げていただきましたこと、心より感謝申し上げます。校長先生をはじめとする諸先生方のご指導、なでしこ会の先輩方のお力添え、在校生の皆さまのご協力により、このような卒業の良き日を迎えることができました。先ほど頂いた校長先生のはなむけのお言葉、ご来賓の方々のお励ましのお言葉、在校生の皆さまのお別れのお言葉に、胸が熱くなる思いでおります。



私たちは二年前、三年前の春、新しい生活に期待と不安を胸に抱きながら東京保育専門学校へ入学しました。年齢や経験は様々でしたが、“保育者になりたい”という熱い思いは共通のものでした。

入学して間もない頃に不安な思いを抱きながら参加した伊豆・天城山荘での校外セミナーでは、友人たちと“理想の保育者像”について語り合いました。まだ互いをよく知らない私たちでしたが、話し合いを重ねていく中で「保育者を志した理由」「子どもたちへの思い」「それぞれの描く将来」等を語り合い、自然と絆が深まっていったのを覚えています。真っ直ぐな思いを語る友人たちの瞳はみな輝いていて、同じ志を持つ仲間が出来たことが心強く、学校生活への不安はいつしか安心や期待へと変化していきました。

また、私たちはこれまでに計五回の実習を重ねて参りました。実習では、学校の講義だけでは得られない数多くの貴重な経験をすることが出来ました。時には辛く、挫けそうになることもありましたが、先生方や先輩方、友人たちに支えられ、また実習で出会った子どもたちの純真無垢な笑顔に救われて、無事に全ての実習を終えることが出来ました。

聖心祭では、どのようにしたら来て下さるお客様に喜んで頂けるのか、クラスで意見を出し合いながら準備を進めていきました。一つの目標を共有し、全員で形作っていくことで、仲間との絆はどんどんと深まっていきました。

私たちが二年間、三年間の日々で学び経験したこと全てが、これからのそれぞれの道で大きな糧となり、自信となっていくことと思います。これからも懸命に学びを続け、子どもたちに温かく寄り添い、子どもたちと共に成長していけるような保育者になりたいと強く感じております。

私たちは学校生活を通して、数え切れない程の素晴らしい出会いを経験し、多くの方々に支えられてきました。楽しい時には笑い合い、苦しい時にはそっと手を差し伸べてくれた”友人”という掛け替えのない財産を得ることも出来ました。

このような出会いを与えてくださいました東京保育専門学校、校長先生はじめ、諸先生方、そして、今まで関わって下さった全ての方々に深く感謝しております。

明日から私たちはそれぞれの思いを深く胸に刻み、新しい生活へ大きく力強い一歩を踏み出します。

最後になりましたが、今日まで私たちを温かく見守り、ご指導くださいました校長先生、諸先生方、支えてくださった皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、在校生の皆様も私たちと同じように充実した学校生活を過ごすことが出来るよう願っております。母校の益々のご発展をお祈り申し上げまして、謝辞とさせていただきます。

平成二十九年三月十五日
卒業生代表 根城 友美